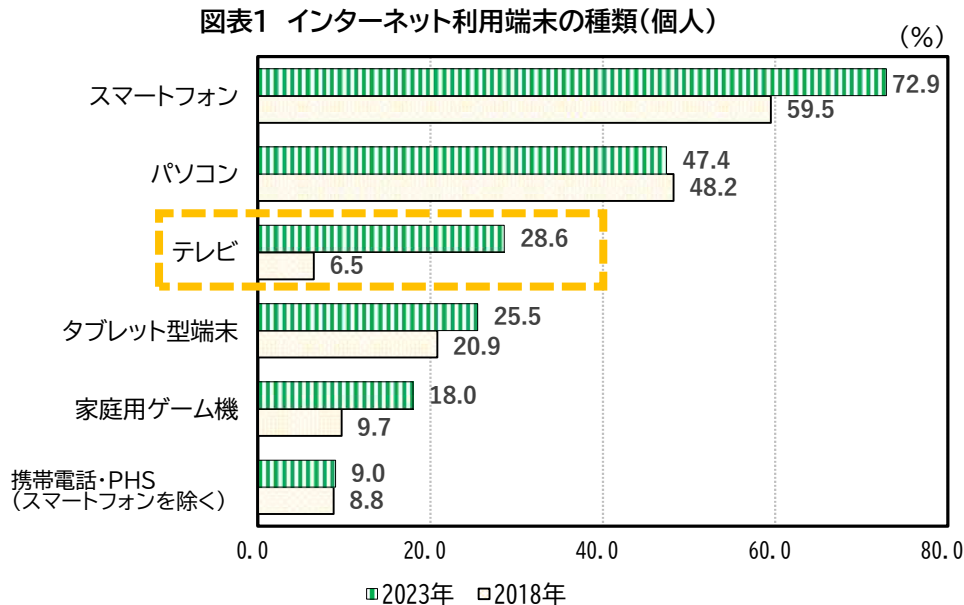


通信と放送の融合の現状 ～インターネットのブロードバンド化と放送のデジタル化～

1. 端末別インターネットの利用状況(個人)

2018年と2023年のインターネット利用状況を比較すると、いずれもスマートフォンが最も利用されており、次いでパソコン、テレビ、タブレット型端末、家庭用ゲーム機、携帯電話・PHSの順となっています。

この間、インターネットでの利用が最も増加したのはテレビで、2018年の6.5%から2023年には28.6%へと4倍以上に増加しています。(図表1)

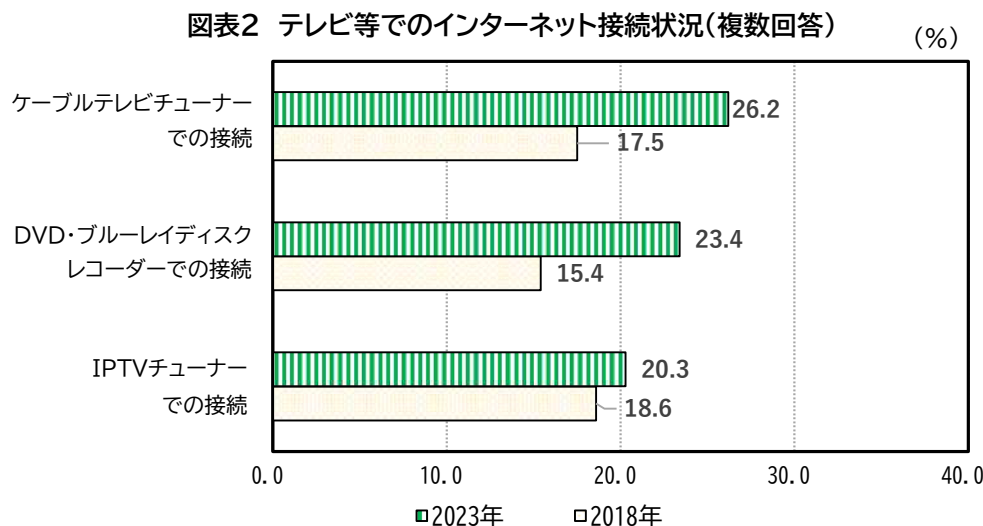


注) 当該端末を用いて過去1年間にインターネットを利用したことのある人の比率
テレビの数値は「インターネットに接続できるテレビ」のもの

資料: 通信利用動向調査(総務省)

2. テレビ等でのインターネット接続(世帯)

テレビをインターネットに接続している世帯は、2023年には6割以上に上っています。その他に、テレビ以外にもケーブルテレビチューナー、DVD・ブルーレイディスクレコーダー、IPTVチューナーの順にインターネット接続がされており、2018年と2023年を比較すると、いずれも接続数は増加しています。(図表2)

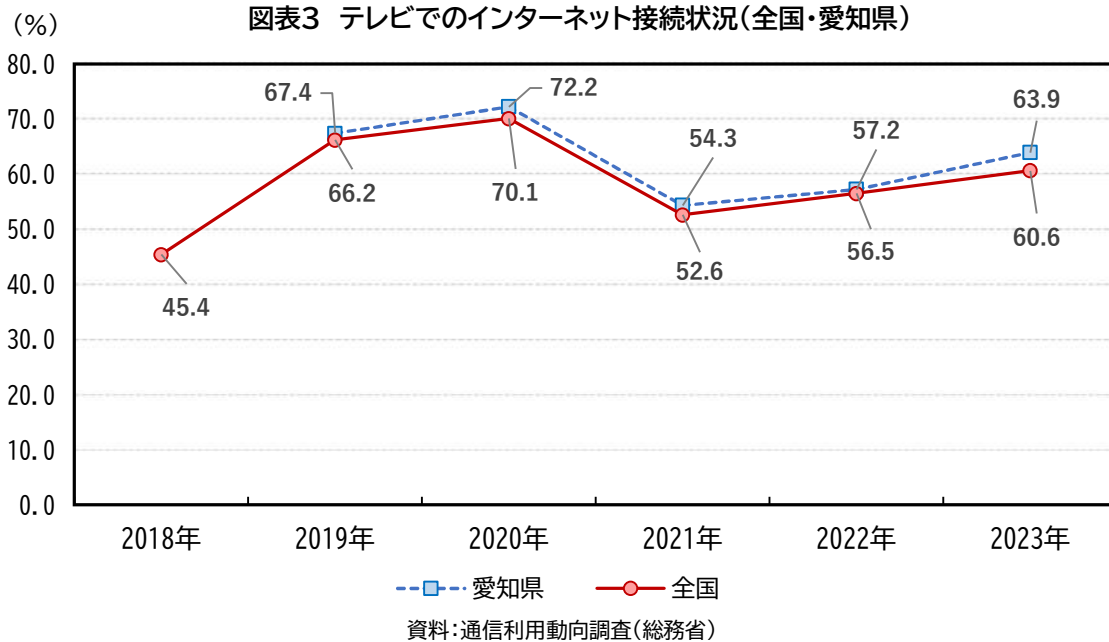


資料: 通信利用動向調査(総務省)

(1)テレビでのインターネット接続状況

テレビでのインターネットへの接続状況の推移をみると、「接続あり」と回答した全国の世帯の割合は、2020年の70.1%をピークに一旦減少に転じたものの、2022年以降、再び増加しています。

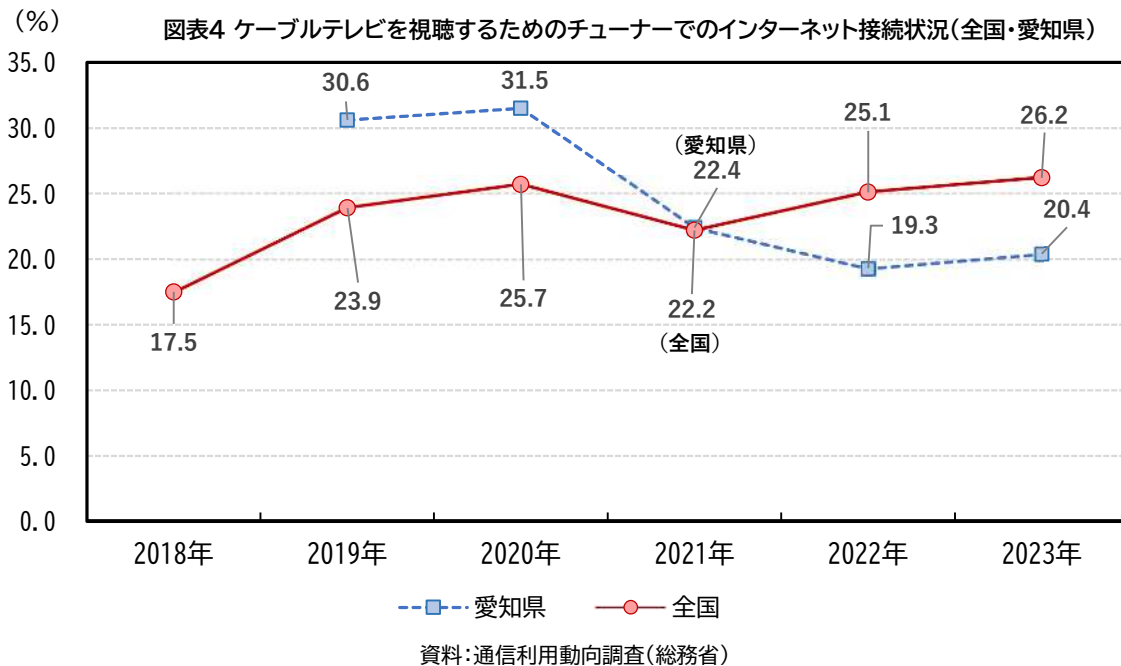
2019年から2023年にかけて愛知県の世界帯についてみると、総じて全国の世界帯と同様の動きをみせています。(図表3)



(2)ケーブルテレビ視聴のためのインターネット接続状況

2018年から2023年にかけて、ケーブルテレビ視聴のためのインターネット接続状況をみると、「接続あり」と回答した全国の世帯は、2019年以降、概ね25%前後の水準で推移しています。

一方、愛知県の世帯をみると、2020年の31.5%をピークに減少し、その後は全国の世界帯と同様に20%前後の水準で推移しています。(図表4)



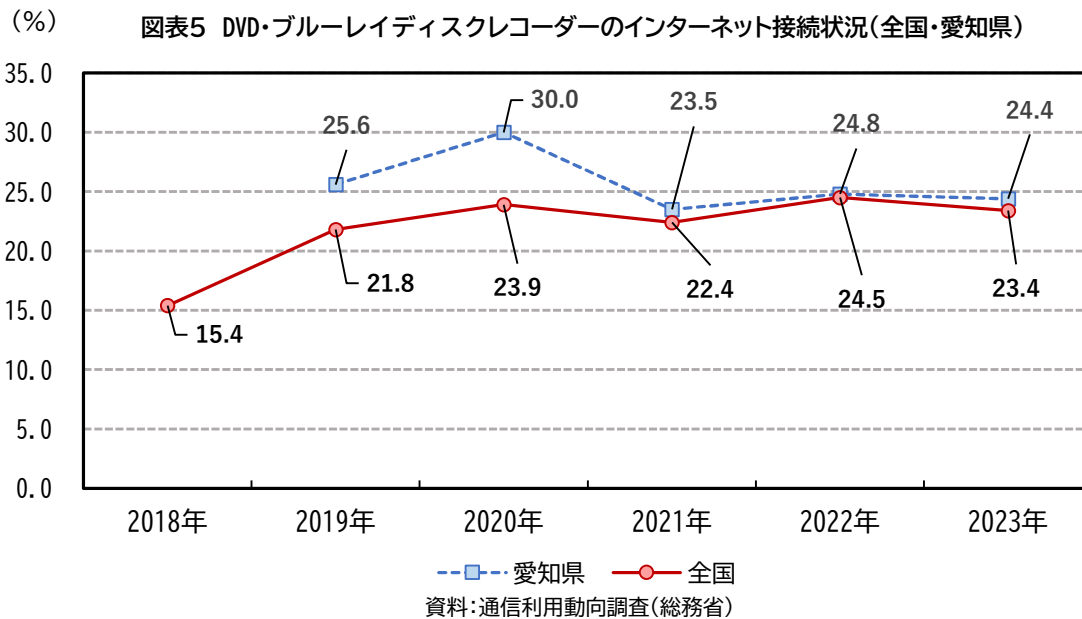
(3) DVD・ブルーレイディスクレコーダーでのインターネット接続状況

2019年から2023年にかけて、DVD・ブルーレイディスクレコーダーでのインターネット接続状況をみると、「接続あり」と回答した全国の世帯の割合は、概ね20%台で推移しています。

同様に愛知県の世界をみると2020年の30%をピークに一旦減少し、2021年以降は20%台で推移しています。(図表5)

DVD・ブルーレイディスクレコーダーが、DLNA(※)で策定されたガイドラインに準拠した機器同士であれば、インターネットに接続することにより、例えば、リビングに設置されているレコーダーに録画した番組を寝室など別室に設置されているテレビで視聴したりすることができます。

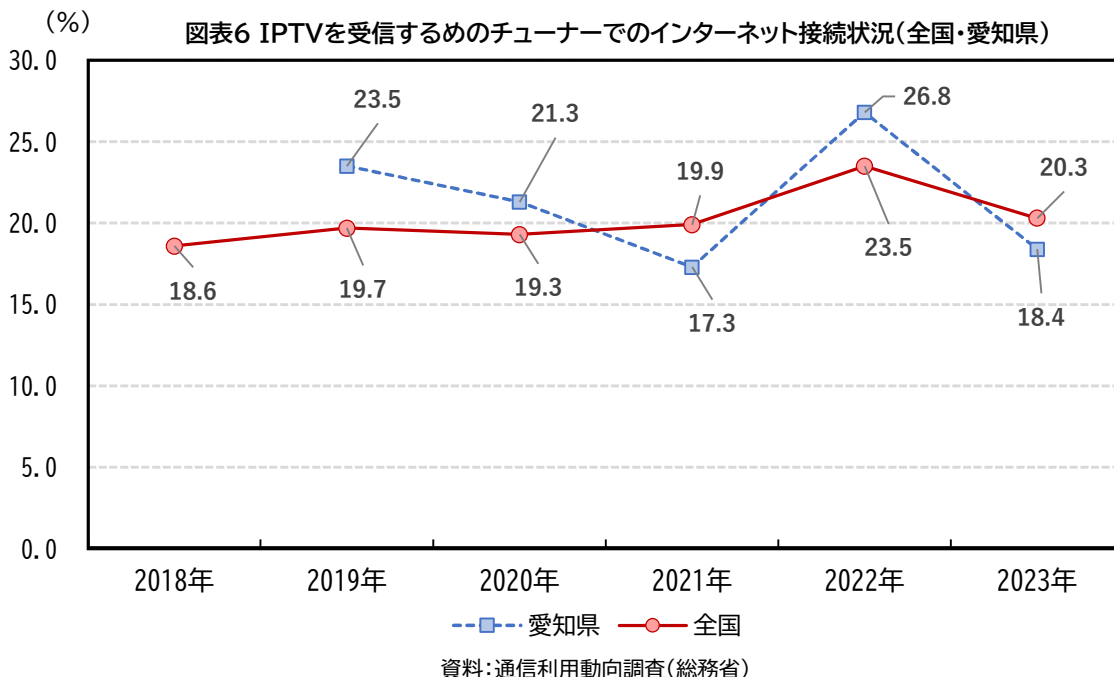
※DLNA(Digital Living Network Alliance)



(4) IPTV 受信のためのインターネット接続状況

IPTV(インターネットプロトコルテレビ)とは、インターネットを介してテレビ番組を配信するサービスです。これにより、従来の放送方式に依存せず、好きな時間に好きな番組を視聴することができます。

2018年から2023年にかけてIPTV受信のためのインターネット接続状況をみると、この間、全国の世帯、愛知県の世帯ともに20%前後の水準で推移しています。(図表6)



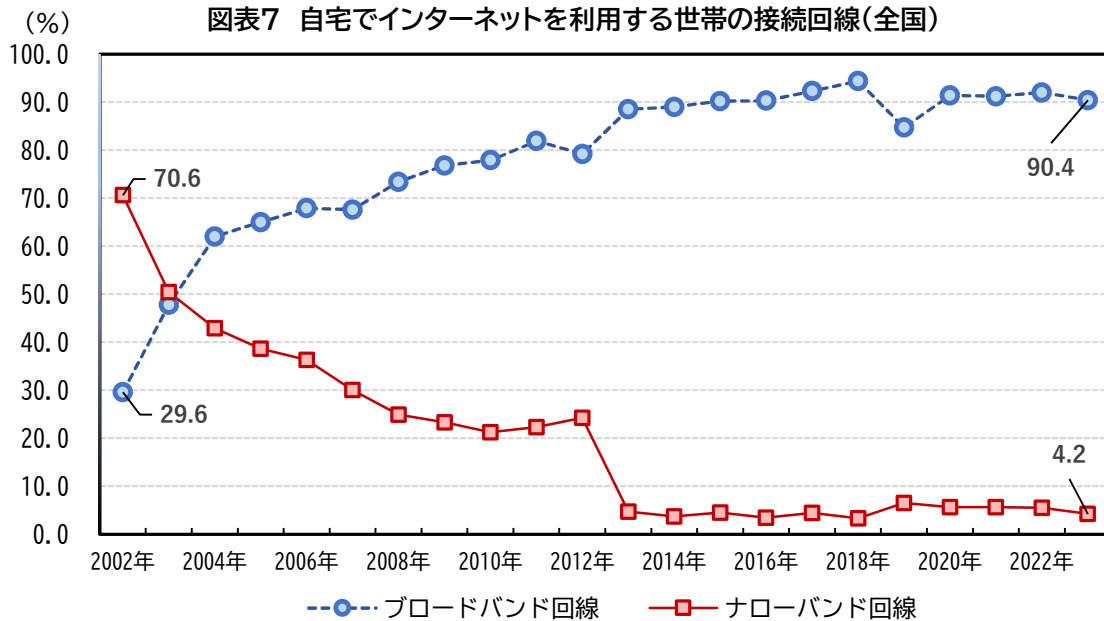
3. 自宅でインターネットを利用する世帯の接続回線

(1)ブロードバンド回線とナローバンド回線の現状

自宅でインターネットを利用する世帯の接続回線をみると、2002年時点では、自宅のパソコンからインターネットにアクセスする方法として約7割の世帯で、ナローバンド回線が利用されていましたが、2004年に逆転し、2023年時点では、9割を超える世帯でブロードバンド回線が利用されています。

(図表7)

なお、ブロードバンドとは、高速で大容量通信ができるインターネット回線全般をいい、大きく分けて固定系ブロードバンド、移動系ブロードバンドの2つのタイプが存在します。

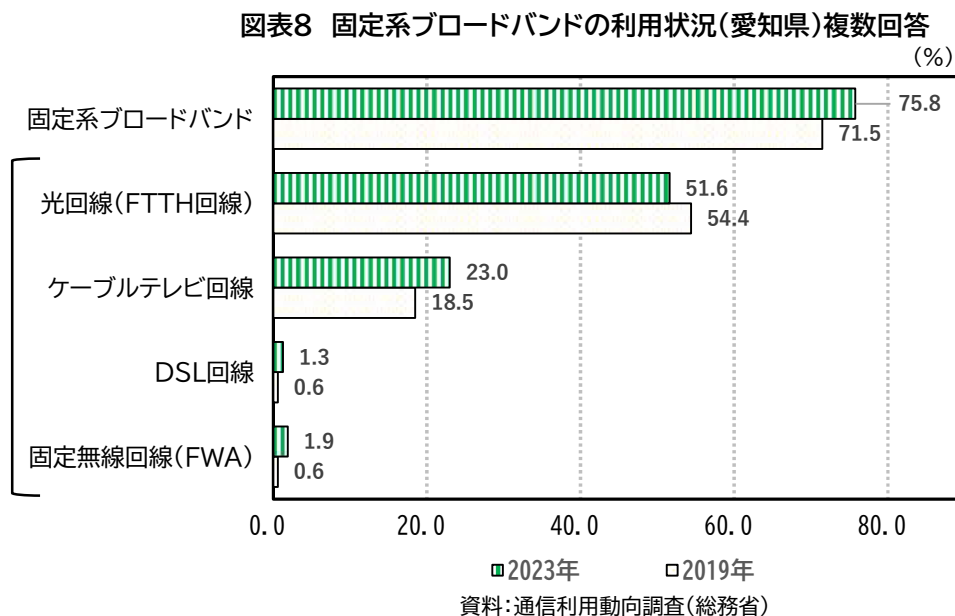


(2)固定系ブロードバンドの利用状況

ア.固定系ブロードバンドの利用状況(愛知県)

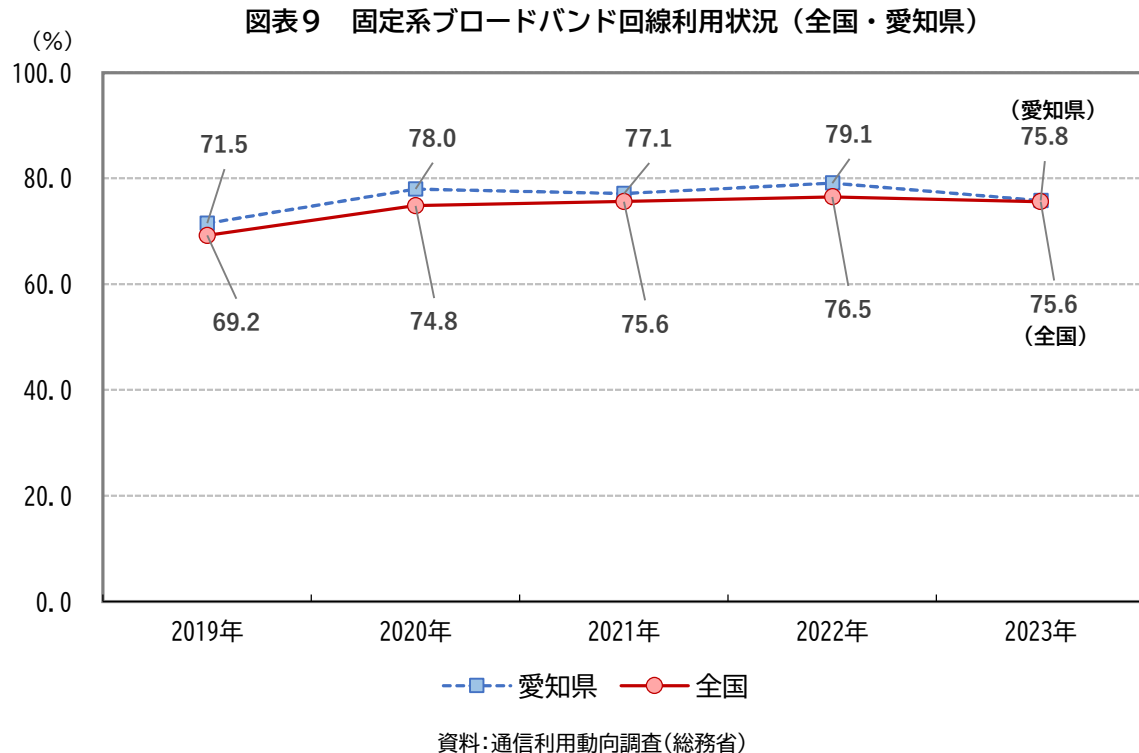
固定系ブロードバンドは、電話線や光ファイバーなどの物理的なケーブルを使用するインターネット回線です。有線接続を利用することにより、安定した高速通信が可能となっています。

愛知県の世帯をみると、固定系ブロードバンドの中では光回線(FTTH回線)が最も多く利用されており、次いで、ケーブルテレビ回線などの順となっています。(図表8)



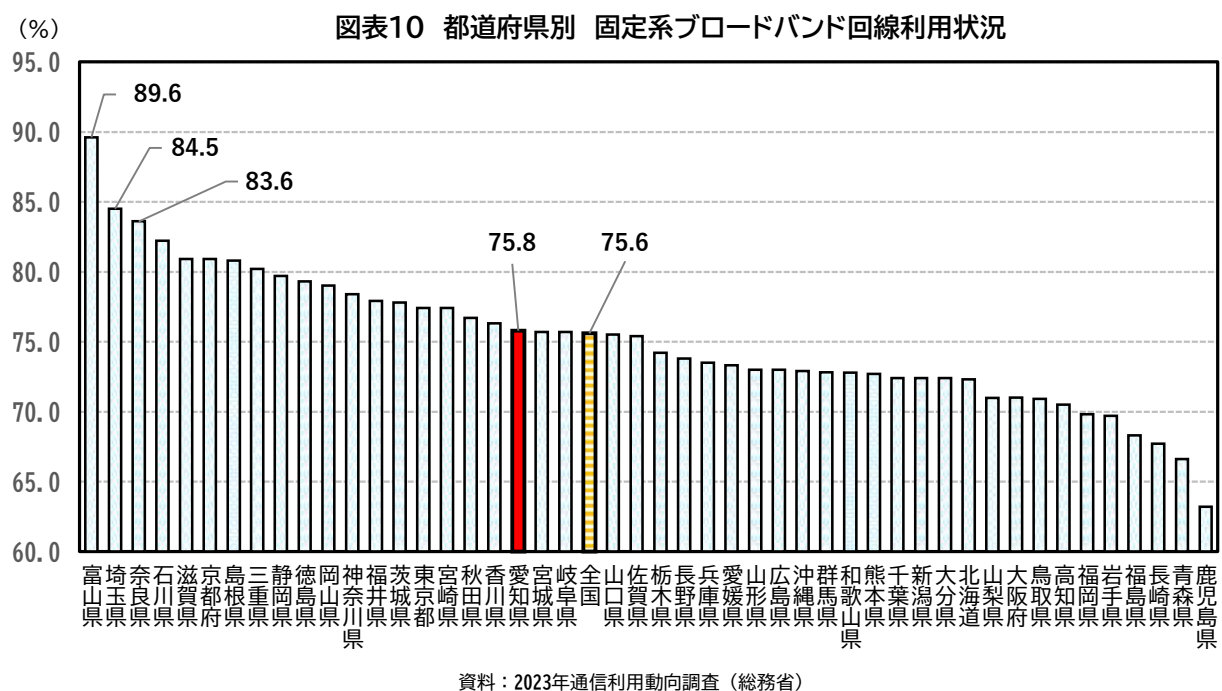
(ア)固定系ブロードバンド回線の利用状況の推移

2019年から2023年にかけて全国、愛知県の世帯について、固定系ブロードバンド回線の利用状況をみると、この間、全国、愛知県の世帯ともに概ね7割を超える水準で推移しています。
(図表9)



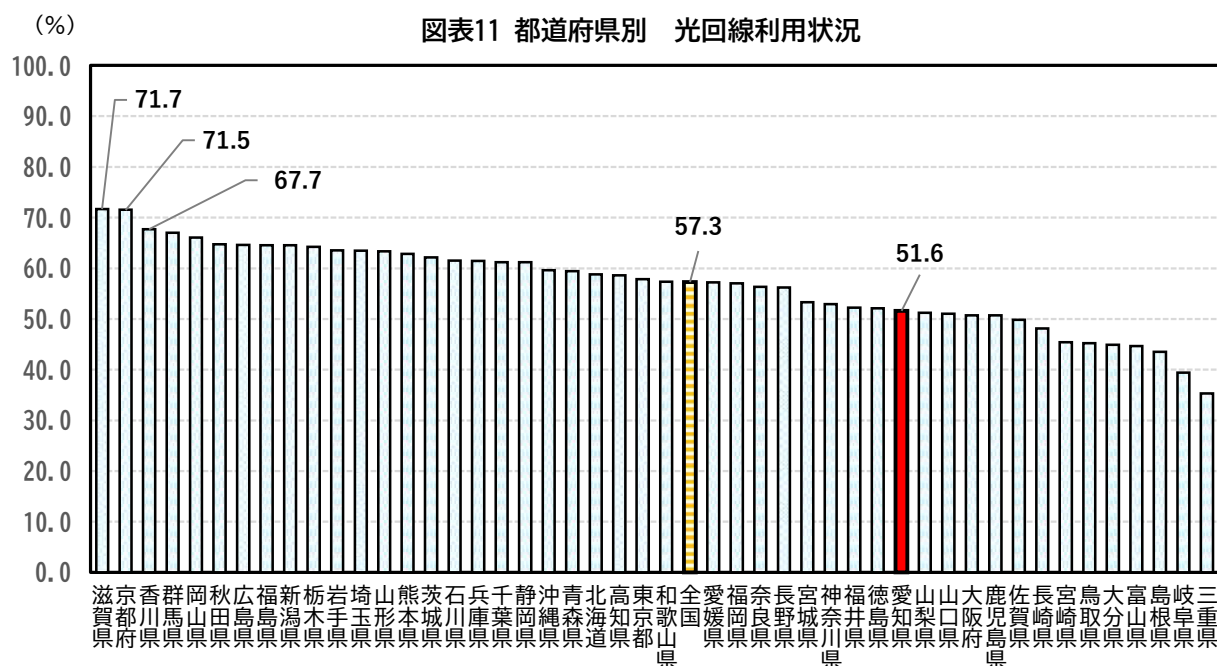
(イ)固定系ブロードバンドの都道府県別利用状況

都道府県別に固定系ブロードバンド回線の利用状況をみると、富山県が89.6%と最も高く、次いで埼玉県(84.5%)、奈良県(83.6%)などの順となっています。愛知県は75.8%で全国19位となっています。(図表10)



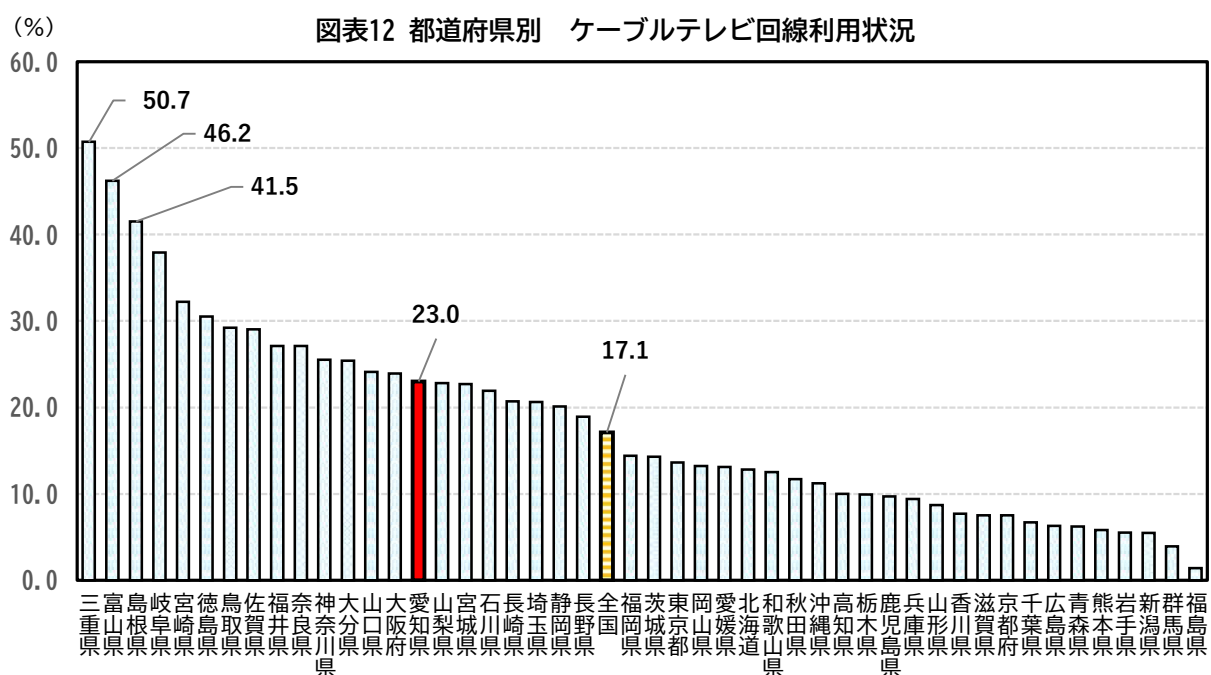
イ. 光回線の都道府県別利用状況

次に、固定系ブロードバンドのうち、光回線の利用状況を都道府県別にみると、滋賀県が71.7%と最も高く、次いで京都府(71.5%)、香川県(67.7%)などの順となっています。愛知県は51.6%で全国34位となっています。(図表11)



ウ. ケーブルテレビ回線の都道府県別利用状況

固定系ブロードバンドのうち、ケーブルテレビ回線の利用状況を都道府県別にみると、三重県が50.7%と最も高く、次いで富山県(46.2%)、島根県(41.5%)などの順となっています。愛知県は23.0%で全国15位となっています。(図表12)



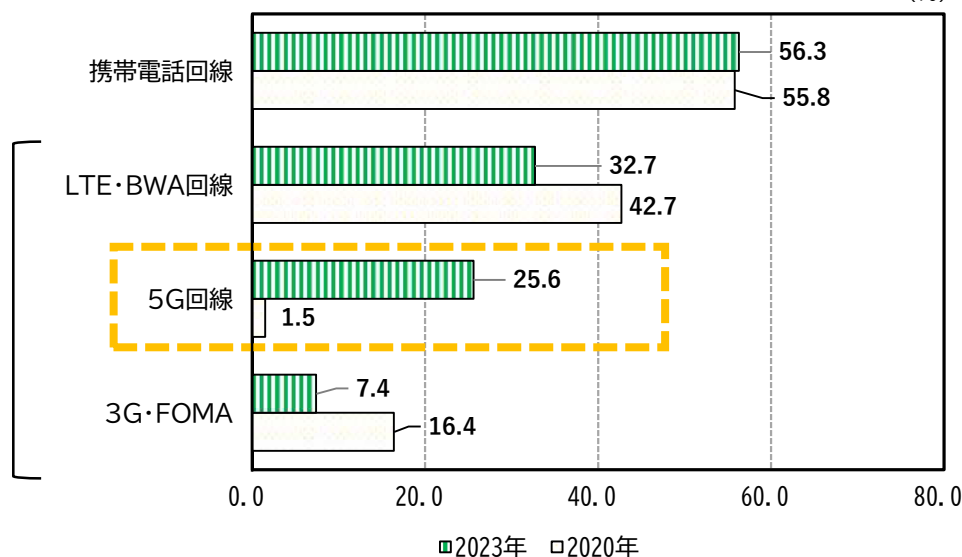
(3)移動系ブロードバンドの利用状況～急速に拡大する5G～

移動系ブロードバンドは、物理的なケーブルを使用せず、携帯電話回線を利用するインターネット回線をいいます。タブレット、スマートフォンなどのモバイルデバイスを利用することで、移動中でも高速な通信が可能になります。

移動系ブロードバンドの利用状況を2020年と2023年で比較すると、5Gの利用が急速に拡大しています。(図表13)

ア. 移動系ブロードバンドの利用状況(愛知県)

図表13 移動系ブロードバンドの利用状況(愛知県) 複数回答 (%)

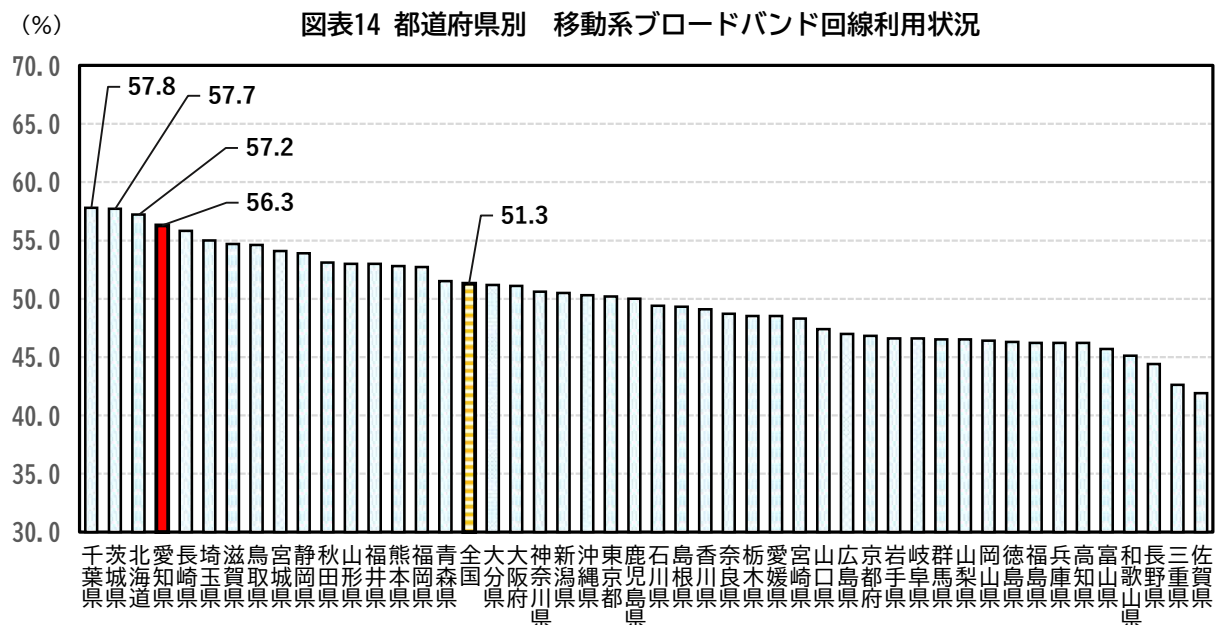


資料:通信利用動向調査(総務省)

イ. 移動系ブロードバンドの都道府県別利用状況

都道府県別に携帯電話回線の利用状況をみると、千葉県が57.8%と最も高く、次いで茨城県(57.7%)、北海道(57.2%)などの順となっています。愛知県は56.3%で全国4位となっています。(図表14)

図表14 都道府県別 移動系ブロードバンド回線利用状況

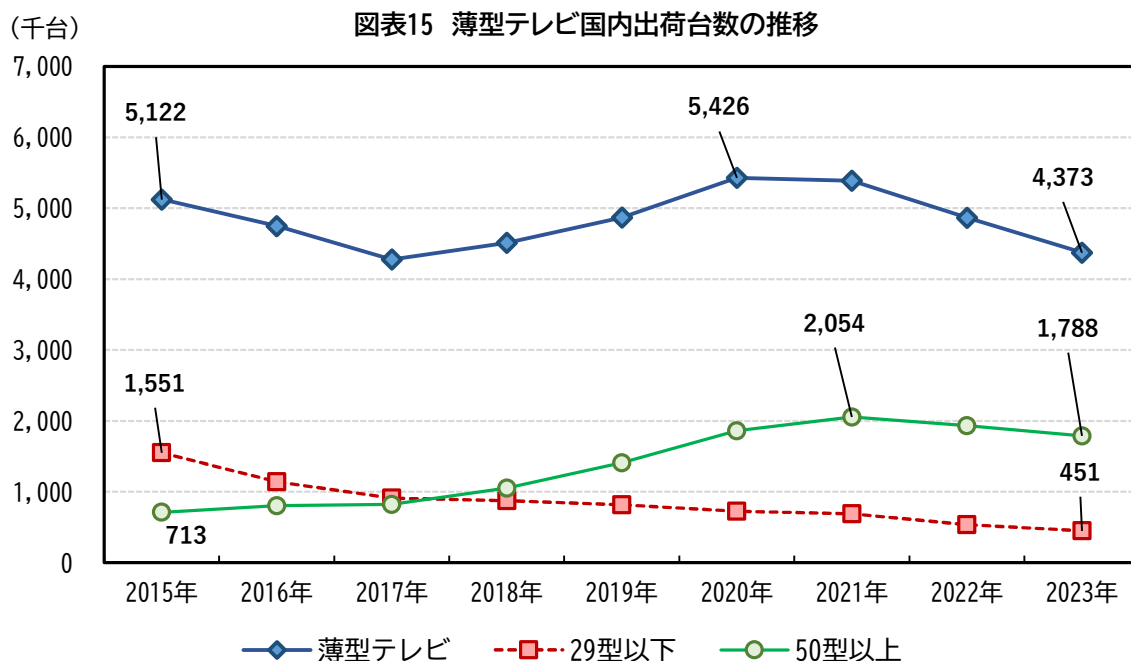


資料:2023年通信利用動向調査(総務省)

4. 放送と通信コンテンツの融合

(1) 薄型テレビ国内出荷台数の推移

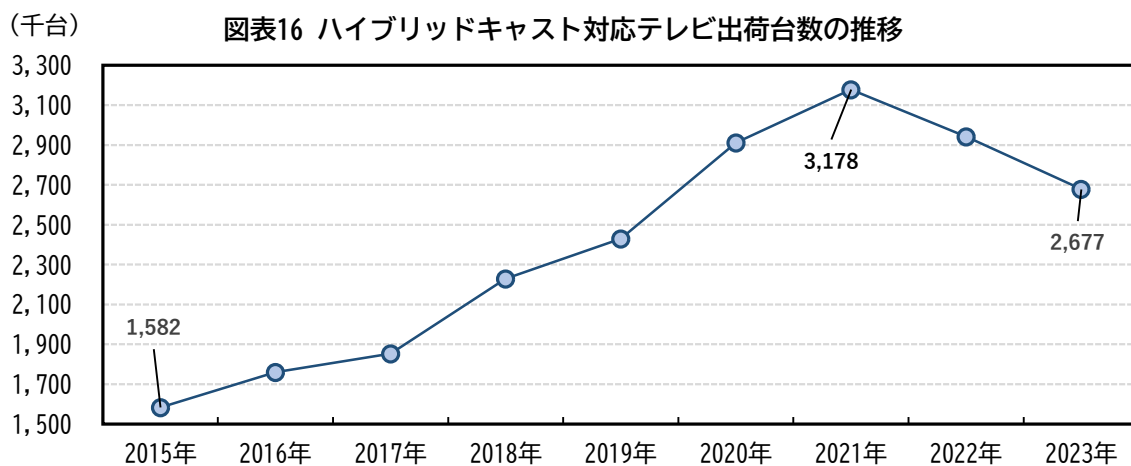
2015年から2023年にかけて薄型テレビの国内出荷台数をみると、2020年から2021年にかけて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による巣ごもり需要や特別定額給付金の支給などの影響もあり、50型以上の大型テレビを中心に出荷台数が増え、5年ぶりに500万台を超えました。(図表15)



(2) 通信・放送融合型サービス～ハイブリッドキャスト

ハイブリッドキャストは、放送とインターネットを連携させたサービスで、ネット経由で送られた映像や情報を番組の画面にオーバーレイ表示させることにより、同じ画面で視聴することができます。

50型以上の大型テレビの需要増加に伴い、ハイブリッドキャストに対応したテレビの出荷台数は年々増加し、2021年には300万台を突破しています。(図表16)



おわりに

今回のトピックスでは、放送と通信の融合をテーマに、主に「インターネットとテレビの現状」についてみてみました。今後は、様々な機能を有したテレビなどの普及により、通信・放送融合型のサービス拡大が期待されます。